

報 告

第 9 回中国国際福祉機器展（上海 ChinaAid2014）

横浜市総合リハビリテーションセンター
地域リハビリテーション部 研究開発課 上野 忠浩

1. はじめに

2014年5月26日から28日の日程で、中国上海博覧会場跡地にある展覽館会場にて、第9回中国国際福祉機器展が開催された。筆者は近い日程で開催され参加した国際学会と場所が同じこともあり、この福祉機器展も見学したので報告する。

2. 第9回中国国際福祉機器展

資料によると昨年の第8回機器展は、2013年5月16日から18日の日程で開催され、展示面積17,000㎡、12カ国から300余りの企業・団体の参加があり、3日間で19,035名の来場者があったとのことである。日本からの出展企業は21社であった。

今年の日本からの出展企業は22社でほぼ昨年と同じである。総来場者数はまだ資料が手元にないものの、見学ツアーと思われる団体がいくつも毎日午前中に訪れており、日本の福祉機器展並みに混雑していた。そのことを考えると、来場者は3日間で2万人以上に上る印象を持った。

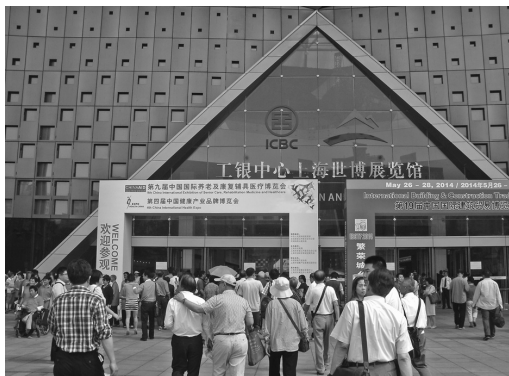


図1 会場の外観

3. 会場の様子

まず驚いたのは、入口で手荷物検査があることであつた。中国では鉄道など公共交通機関に乗車する際も透視装置に手荷物を通さなければならず、治安の徹底化には少々驚いた。会場に入っただけで、展示内容自体は日本の状況とあまり変わらない光景であつた。高齢者向け介護施設の紹介ブースが多く目立っていた。日本で馴染みの企業も出展しており、ニチイ学館などは日本人スタッフがケアサービスの流れを実演しながら説明し、聴衆には通訳者を通して伝えていた。中国オリジナル製品かどうかは不明だが、図2の折り畳み式電動車いすが複数社から出展されており、来場者の関心を引いていた。連続走行距離は30km、登攀角度12度、重さ21.5kgとのことである。今後の進化を期待したい。



図2 折り畳み式電動車いす

4. おわりに

中国の地下鉄での出来事。乳幼児をバギーに乗せた家族あり。北京駅で降りて改札に向かう道中、込み合う階段でバギーをどうするのかと見ていると、頼みもしないのに周囲の人が無言でバギーを左右でかかえ共に階段を上って行った。上りきった後、相方特に挨拶もなく別れていき、バギーの家族は何事もなかったように改札を通って行った。この相互扶助の精神が広がることを期待したい。

横浜市総合リハビリテーションセンター
地域リハビリテーション部 研究開発課
〒222-0035 神奈川県横浜市港北区鳥山町1770